

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520079

研究課題名(和文) 近現代日本の宗教とナショナリズム 国家神道論を軸にした学際的総合検討の試み

研究課題名(英文) Interrelationships of Religions and Nationalism in Modern Japan: An interdisciplinary research centered on "State Shinto" theory

研究代表者

小島 伸之 (Kojima, Nobuyuki)

上越教育大学・学校教育研究科(研究院)・准教授

研究者番号：00449258

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間内において、研究組織メンバー(研究代表者・研究分担者・連携研究者・研究協力者)により、雑誌論文9件、学会発表9件、図書8件(本科学研究成果報告書1、単著1、共著4、分担執筆2)が公にされた。図書のうちの1件は、研究期間全体の成果として研究組織メンバーの論文を8本掲載したものであり、今後さらに加筆修正等の作業を経て、公刊を企画している。

個別具体的な成果内容は多岐にわたるため研究成果報告書や個々の論文・学会発表・図書に譲るが、近現代日本の宗教とナショナリズムに関する諸論点、特に「国家神道」論について、研究領域を横断した議論の結果を踏まえた多くの成果発表がなされたことになる。

研究成果の概要(英文)：Through this research, many results, which were based on the results of discussions across the study area, have been made public on various issues related to religions and nationalism in modern Japan and "State Shinto" theory. Over the period of this study, 9 journal articles, 7 books (1 single author, 4 co-author, 2 sharing writing) as well as the final report of this research have been published by research organization members. The planned final report of this research is composed of eight articles by the members and covers the results of the entire study period.

Owing to the wide range of outcomes, please consult the final report, published papers, books, etc. for detailed results of this research.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：国家神道 ナショナリズム 宗教 近代 ファシズム 宗教社会学 学際交流

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進行が一方でナショナリズムを喚起するという現象は、今日、世界の各地域に現出している。こうした状況は、欧米列強の進出に際した幕末維新期の我が国において生じた現象とも相似している、古くて新しい問題である。宗教は、その時代におけるナショナルなものとインターナショナル・ユニバーサルなものの結合態様の諸形態を把握するため、また近代とは何かを検討するための格好の戦略高地といえる。その意味で、宗教社会学者の森岡清美が『近代の集落神社と国家統制』(1987年)において神社合祀を事例としたのは、鈴木榮太郎や肥後和男、有賀喜左衛門らの関心の延長線上として、『欧米近代社会とは異なる日本近代社会の特質の解明』という問題意識にあったことの再確認が本研究の着想の前提となっている。

研究代表者は、これまで、大日本帝国憲法の制定過程、戦前日本の宗教法制、特別高等警察による宗教運動取締などの研究を進めてきており、これらの個別研究を通じて、近代日本における《国家と宗教》の問題を考察する際には、国家・宗教の二者関係ではなく、国家(政府)・宗教・社会の三者相関関係を前提に考察することの必要性を指摘してきた。それらの諸研究の成果が、本研究の前提となっている。

近代日本の国家と宗教の関係性については、村上重良『国家神道』(1970年)を契機に、国家神道研究として展開してきているが、近年、阪本是丸編『国家神道再考』(2006年)、畔上直樹『「村の鎮守」と戦前日本「国家神道」の地域社会史』(2009年)、島園進『国家神道と日本人』(2010年)等の新たな成果が発表され、神社神道と国家のかかわりや明治末期以降の一般社会(国民)による国家神道への積極的な関与等の点で、改めて議論の展開が進みつつある。本研究と対象範囲をほぼ同じくするものとしては、洗建・田中滋編『国家と宗教 宗教から見る近現代日本』(2008年)があり、収録論考の一部は本研究にとっても重要な前提となる。宗教とナショナリズムの関係性一般の関係については、ユルゲンスマイヤー『ナショナリズムの世俗性と宗教性』(1993年)、中野毅他編『宗教とナショナリズム』(1997年)等において、主に国家あるいは政治的次元に関連して言及されてきた。また、歴史学・社会学領域のナショナリズム研究もかなりの蓄積があり、例えば、戦後から1970年代までの知識人のナショナリズム言説を整理・総括した研究に小熊英二『民主と愛国』(2002年)のナショナリズムの表現形態としてのインターナショナリズムという視角は本研究着想の背景のひとつである。

このように、国家神道研究などを中心に近現代日本の宗教とナショナリズムをテーマとした研究には相当の蓄積があるが、一方で

その全体像についてさらなる実証的再検討の必要性が指摘されている。また、大日本帝国憲法の制定史・運用史研究領域の成果や戦後思想史との関連性についてはさほど議論の俎上にあげられず、また近代日本ナショナリズムの一般性(近代国民国家一般のナショナリズムとの関連性)についての検討は十分になされているとはいえない状況にある。

2. 研究の目的

本研究は、近代日本憲法史、国家神道研究、ナショナリズム論、宗教社会学、神道学等の研究者が連携し、近・現代日本のナショナリズムと宗教の関係性及び宗教におけるナショナリズム・インターナショナリズム・ユニバーサリズムの諸結合形態を分析し、その多様性を示すこと、およびそのあり方の歴史の変遷を辿ることを通じて、『近代とは何か』という問い、及び『近現代日本の特殊性と一般性とは何か』という問いについて、各領域の先行研究を踏まえつつ改めて総合的に考察することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、歴史資料及び教団刊行物・機関誌紙等の一次資料の収集分析を中心とした文献研究と国内(新宗教教団等)を対象とした調査研究によって構成される。メンバーの専門性に応じて研究領域を分担することによって各研究調査の質的担保をはかると同時に、定期的な研究会による密な連携と議論を通じて常に問題意識を共有・確認して各研究調査の成果を有機的に連関させることによって、近現代日本の宗教とナショナリズムに関する事例を実証的に検討し、その成果を理論的に整理する。メンバー相互間での定期的討議を積み重ねた上で、共同執筆も含む論文を紀要や学術誌へ投稿・発表する。期間中、学会でのパネル等を企画し、それまでの成果公表とメンバー外の研究者からのフィードバックを図る。

最終年度には成果を総括し、将来的には論文集の発行も視野に入れることで成果の社会への積極的発信を目指す。

4. 研究成果

研究期間内において、研究組織メンバー(研究代表者・研究分担者・連携研究者・研究協力者)により、雑誌論文9件、学会発表9件、図書8件(本科学研究成果報告書1、単著1、共著4、分担執筆2)が公にされた。図書のうちの1件は、研究期間全体の成果として研究組織メンバーの論文を8本掲載したものであり、今後さらに加筆修正等の作業を経て、公刊を企画している。

個別具体的な成果内容は多岐にわたるため研究成果報告書や個々の論文・学会発表・図書に譲るが、近現代日本の宗教とナショナリズムに関する諸論点、特に「国家神道」論について、研究領域を横断した議論の結果を

踏まえた多くの成果発表がなされたことになる。一方、近現代日本の宗教とナショナリズムに関する諸論点について、議論を重ねた上でも研究者間で共有が困難な点が存在することも改めて具体的に浮き彫りになってきた。このことも、間接的成果と位置付けられるであろう。この議論の「かみあわなさ」に関しては研究会において暫定的検討が加えられたが、今後さらに議論を整理したうえでの論文化が予定されている。

また、本科研の成果として重要な意義を有すると考えられるのは、研究ネットワークの拡大・発展である。本科研は、2007年以來有志で開催していた研究会を発展させたものである。科研研究遂行に際して、より多くの学術領域に存在する近現代日本の国家と宗教に関心を有する研究者に研究会への参加を呼び掛け、計11回の研究会及び共催研究会、共催学会報告の開催に際して、多くの新規参加者を得た。この点は、今回の研究成果に多角的視点からの考察の成果として反映されている他、代表者・分担者・連携研究者・研究協力者や研究会参加者の今後の研究の進捗にとって、有形無形の知的資産になると考えられる。また、本科研研究を契機に得られた人的つながりを活用し、今後も非定期的な研究会の開催が予定されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

藤田大誠、「鎮守の森」の近現代、國學院大學人間開発学研究、査読有、Vol.5、2014、83-96

藤田大誠、近代神職の葬儀関与をめぐる論議と仏式公葬批判、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読無、Vol.8、2014、89-124

畔上直樹、「大東京」形成期の「鎮守の森」と造園学「明治神宮モデル」をめぐって、神園、査読無、Vol.9、2013、7-44

萱浩二、日韓同祖論と神社、東アジア文化研究、査読無、Vol.53、2013、65-89

小島伸之、純粋在家主義と戦前日本の宗教制度、本化仏教紀要、査読無、Vol.1、2013、71-109

萱浩二、戦時経済論と記紀神話解釈の一側面、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読無、Vol.7、2013、1-39

藤田大誠、神社対宗教問題に関する一考察、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読無、Vol.7、2013、41-66

畔上直樹、奥山倫明、粟津賢太、南山宗教文化研究所研究会「近代神社と宗教ナショナリズム」畔上直樹氏の近著をめぐって、南山宗教文化研究所研究所報、査読無、Vol.22、2012、5-33

藤田大誠、「国家神道」概念の有効性に関

する一考察 島園進著『国家神道と日本人』の書評を通して、明治聖徳記念学会紀要、査読有、Vol.Reissue48、2011、291-302

[学会発表](計9件)

小島伸之、「国家神道」と特別高等警察、明治聖徳記念学会第56回例会、2014年03月15日、明治神宮社務所講堂

畔上直樹、帰一教会設立と阪谷芳郎：明治神宮造営の背景としての世俗主義相対化論、公開学術シンポジウム「帝都東京と明治神宮造営 阪谷芳郎から読み解く近代日本」、2013年10月26日、明治神宮社務所講堂

畔上直樹、「村の鎮守」神主の動向から見た20世紀初頭の日本社会、可能性としての「日本」研究会、2013年09月17日、サントリー文化財団会議室

藤田大誠、昭和戦前期における神社と神道「国家神道」の理想と現実、日本宗教学会第72回学術大会、2013年09月08日、國學院大學

高橋典史(研究協力者)、20世紀前半のハワイ日系諸宗教にみる日本人移民の死生観、日本移民学会、2013年08月25日、兵庫県学校厚生会館

小島伸之、戦前期日本の宗教制度再考 アジア諸国との比較を手掛かりに、「宗教と社会」学会第21回学術大会、2013年06月16日、皇學館大学

藤田大誠、小島伸之他、パネル「国家神道」における公共性と宗教性、日本宗教学会第71回学術大会、2012年09月08日、皇學館大学

畔上直樹、南方熊楠の合祀反対運動における「人民の意志」論の再検討、日本国際文化学会2012年度第11回全国大会、2012年07月08日、青山学院大学

畔上直樹、神社「非宗教」概念と二〇世紀初頭の日本社会 在地神職層の動向を中心に、国際日本文化研究センター共同研究会「東アジア近現代における知的交流 概念編成を中心に」平成24年度第1回研究会、2012年04月21日、国際日本文化研究センター

[図書](計8件)

小島伸之、畔上直樹、寺田喜朗、塚田穂高、島園進、藤田大誠、萱浩二、高橋典史(研究協力者)(上越教育大学小島研究室)、科学研究費補助金研究成果報告書「近現代日本の宗教とナショナリズム 国家神道論を軸にした学際的総合検討の試み」、2014、157

市川裕編、島園進、聖公会出版、世界の宗教といかに向き合うか 月本昭雄先生退職記念献呈論文集第1巻、2014、325(207-220)

古沢広祐責任編集、萱浩二、弘文堂、共存学2「災害後の人と文化 ゆらぐ世界」、2014、259(183-200)

高橋典史(研究協力者)、ハーベスト社、移民、宗教、故国「近現代ハワイにおける日

系宗教の経験、2014、291

妙高市教育委員会編、畔上直樹、妙高市教育委員会、斐太歴史の里の文化史 鎮守の森の文化財と斐太神社を訪ねて、2014、289 (7-44)

趙景達・原田敬一・村田雄二郎・安田常雄編、島園進、有志舎、講座東アジアの知識人第1巻文明と伝統社会、2013、380(186-203)
畔上直樹、木村茂光監修・歴史科学協議会編、東京堂出版、戦後歴史学用語辞典、〔執筆項目〕「国家神道」「慰霊」「史蹟」、2012、400(316,318,319)

小島伸之、世界宗教百科事典編集委員会編、丸善出版、世界宗教百科事典、〔執筆項目〕「現代日本の政治と宗教」、2012、912(438-439)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小島 伸之 (KOJIMA, Nobuyuki)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：00449258

(2) 研究分担者

畔上 直樹 (AZEGAMI, Naoki)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：20315740

寺田 喜朗 (TERADA, Yoshiroh)

大正大学・文学部・准教授

研究者番号：40459839

塚田 穂高 (TSUKADA, Hotaka)

國學院大学・研究開発推進機構・助教
研究者番号：40585395

島園 進 (SHIMAZONO, Susumu)

上智大学・神学部・特任教授

研究者番号：20143620

對馬 路人 (TSUSHIMA, Michihito)

関西学院大学・社会学部・教授

研究者番号：60150603

(3) 連携研究者

藤田 大誠 (FUDITA, Hiromasa)

國學院大学・人間開発学部・准教授

研究者番号：20407175

菅 浩二 (SUGA, Kohji)

國學院大学・神道文化学部・准教授

研究者番号：30532676

(4) 研究協力者

高橋 典史 (TAKAHASHI, Norihito)

東洋大学・社会学部・准教授

研究者番号：50633517